で之を棄てゝ仕舞て英學に移らうとすれば新に元の通りの苦みをもう一度しなければならぬ誠に情ない、つらい話である譬へば五年も三年も水練を勉强して漸く泳ぐことが出來るやうになつた所で其水練を罷めて今度は木登りを始めやうと云ふのと同じ事で以前の勉强が丸で空になると斯う考へたものだから如何にも決斷が六かしいソコで學友の神田孝平に面會して如何しても英語を遣らうぢやないかと相談を掛けると神田の云ふにイヤもう僕も疾うから考へて居て實は少し試みた、試みたが如何にも取付端がない何處から取付て宜いか實に譯けが分らない併し年月を經れば何か英書を讀むと云ふ小口が立つに違ひないが今の處では何とも仕方がないマア君達は元氣が宜いから遣て呉れ大抵方角が付くと僕も遣るから、ダガ今の處では何分自分で遣らうと思はないと云ふ夫れから番町の村田藏六（後に大村益次郎）の處へ行て其通りに勸めた所が是れは如何しても遣らぬと云ふ考で神田とは丸で說が違ふ「無益な事をするな僕はそんな物は讀まぬ要らざる事だ、何もそんな困難な英書を辛苦して讀むがものはないぢやないか必要な書は皆和蘭人が飜譯するから其飜譯書を讀めばソレで澤山ぢやないかと云ふ「成程それも一說だがけれども和蘭人が何も角も一々飜譯するものぢやない僕は先頃横濱に行て呆れて仕舞た此鹽梅では迚も蘭學は役に立たぬ是非英書を讀まなくてはならぬではないかと勸むれども村田は中々同意せず「イヤ讀まぬ僕は一切讀まぬ遣るなら君達は遣り給へ僕は必要があれば蘭人の飜譯したのを讀むから構はぬと威張て居る是れは迚も仕方がないと云ふので今度は小石川に居る原田敬策に其話をすると原田は極熱心で何でも遣らう誰がどう云ふても構はぬ是非遣らうと云ふから「爾うかソレは面白いそんなら二人で遣らう、どんな事があつても遣遂げやうではないかと云ふので原田とは極說が合ふて愈よ英書を讀むと云ふ時に長崎から來て居た小供があつて其小供が英語を知て居ると云ふので、そんな小供を呼で來て發音を習ふたり又或は漂流人で折節歸るものがある長く彼方へ漂流して居た者が開國になつて船の便があるものだから折節歸る者があるからそんな漂流人が着くと其宿屋に訪ねて行て聞たこともある其時に英學で一番六かしいと云ふのは發音で私共は何も其意味を學ばうと云ふのではない只スペルリングを學ぶのであるから小供でも宜ければ漂流人でも構はぬ爾う云ふ者を捜し廻ては學んで居ました始めは先づ英文を蘭文に飜譯することを試み一字々々字を引てソレを飜譯すれば文に書直せばちやんと蘭文になつて文章の意味を取ることに苦勞はない唯その英文の發音を正しくするのに苦んだが是れも次第に緒が開けて來れば夫れはその難澁でもなし詰る處は最初私共が蘭學を棄てゝ英學に移らうとするときに眞實に蘭學を棄てゝ仕舞ひ數年勉强の結果を空うして生涯二度の艱難辛苦と思ひしは大間違の話で實際を見れば蘭と云ひ英と云ふも等しく横文にして其文法も略相同じければ蘭書讀む力は自から英書にも適用して決して無益でない水を泳ぐと木に登ると全く別のやうに考へたのは一時の迷であつたと云ふことを發明しました（大阪を去て江戸に行く終り）

社說

砂糖と酒

先頃來世間に砂糖課税の說あり政府部内に於ても之を好財源と認め實行の方法に就て調査中の由なれば豫算査定の成行如何に依て課税案の成立を見るやも知る可らずと云ふ往年砂糖の製造は甘蔗を産出する熱帶地方のみに限られたれども近年甜菜糖の製法行はれてより世界到る所に其製造を見るに至れるのみならず各國政府に於て自國の製造者に夫れ〳〵奬勵を與へて輸出の增進を謀りたるにぞ其價は需要の增加にも拘はらず次第に下落の傾を呈したり現に一昨年來我國の諸物價は著しく騰貴したるに砂糖のみは外國より廉價の輸入品あるが爲めに自から之に制せられて他と同樣の割合を以て騰貴せざるの一事を見ても世人が廉價の砂糖を消費するの事實は甚だ明白にして殊に其消費は社會生活の程度の上進すると共に增加す可きものなれば課税法にして宜しきを得んには毫も消費者に苦痛を及ばさずして其收入はます〳〵增加の望なきに非ず歐洲諸國が從來砂糖税に重きを置く所以にして我當局者が斯る課税を思ひ立ちたるも全く此邊の事情に出づるものならんなれども今の實際を見るに我國に於て消費する砂糖の過半は外國より供給を仰ぐ次第にして内地の生産は常に外國品の輸入の爲めに壓倒せらるゝの傾あれば、いよ〳〵課税を實行する場合には輸入税をして内國税に伴はしむるの必要あり然らば新關税則は此點に就て如何なる制限を設けたりやと云ふに關税定率法は精糖の輸入税を原價の二割、赤黒砂糖の税を五分と定めたれども日英并に日獨條約の協定税則に於て精糖の輸入税を一割と定めたるを以て輸入の大部分を占むる白砂糖に對しては一割以上の税を課するを得ず然らば其内國税も外國輸入品との競爭上一割以内の税率に止めしむるは實際に已むを得ざる所にして外國の輸入高が未だ二千萬圓に達せず内國の製造高も七百萬圓内外に過ぎざる今日に於て斯る税率を課したればとて何程の收入をか得る能はざる可し或は條約上の制限を避けんが爲め砂糖の内國産たると外國産たるとを區別せず仲買人の賣上代價を標準として課税す可しとの說ある由なれども斷じて今日の如く輸入の砂糖と内國産の砂糖との間に生産費の相違著しき場合に同樣の課税を加へんには多額の生産費を要する内國の製糖業をしてます〳〵衰微の傾を呈せしむるの掛念なきを得ず英國の如き輸入煙草税の收入を增加せしめんが爲め内國に葉煙草の耕作を禁止したるなどの例あれども是れは輸入税の收入が非常に增加の見込ありたるが爲めにして我國の如く他に好財源の存する場合に殊更らに砂糖に課税を加へて製糖業を衰頽せしむるは決して策の得たるものと云ふ可らず當局者が一方に酒税增加の實際に適當なる所以を認めながら太に其增加を躊躇して一方に砂糖税を始め地租市街宅地税等の增率に意あるは何故なりやと云ふに大に酒税を增加するときは之が爲めに代用品の輸入製造を奬勵し或は脱税密造の風を促し又税率を增したる割合に收入の增加を見る能はざる可しなど無益の掛念を懐くが爲めならん近年酒精并に支那酒の輸入が著しく增加したるは實際の事實にして殊に酒精の如き昨年の輸入元價は九十六萬圓に過ぎざりしに本年は一月以降六箇月間に百三十一萬圓に上りて今後ます〳〵增加の模樣あれば當局者が多少の掛念を起すも無理ならぬ所なれども是れは從來政府が酒精の輸入混成酒の製造等に就て取締を怠りたるが爲めにして一方に其邊の取締を嚴重にすると同時に一方に自家用料酒の禁止を斷行するときは清酒の造石高は決して今の四百萬石に止まらざる可し今日税法の實際を見るに直接税を增加して脱税の弊を招き間接税を增加して代用品の消費を促すに至るは到底免かれ難き所にして若しも一部の論者が唱ふる如く之を標準として税の良否を云はんには一として不良のものならざるはなし畢竟學の末節にのみ着目して大體に通ぜざる迂濶論にて殆んど顧みるに足らず當局者が區々たる世說に迷はず税源の選擇に就て宜しきを得んこと我輩の希望する所なり

○豫算會議

三十二年度の經費に就る各省より大藏省へ差出したる要求額を總計すれば五千萬圓以上の歳入不足を生ずべく斯くて地租、酒税、宅地租、所得税、砂糖税等の增課のみに依りて補塡することは難ければ大凡三千萬圓位まで切り詰めるの覺悟にて大藏省は一種の査定案を作り各省に交渉して要求額の削減を求めたるに各省とも實際、餘儀なき必要の分のみを要求せるに上したるものなれば大藏省の査定に從ひ難しとて容易に交渉の纏るべき模樣なしといふ然れば此上は閣議を開き豫算に對する大體の方針を確定し歳入補塡の途を他に求むる乎、將た大藏省査定の主旨を是認すべき乎等を決議する筈にて此閣議は多分本日より永田町總理官邸に於て開かる可しといへり

○勲章御贈進の事

墺地利國皇帝フランツ、ヨセフ第一世陛下の即位五十年祝典を維也納府に行はるゝに付き閑院宮載仁親王殿下を參列せしめらるゝ旨の御沙汰ありしことは既に報ぜしが同皇帝へは此際、菊花大綬章の頸飾を同皇帝へ、寶冠章を皇后陛下へ御贈進あらせらるべき筈にて一昨五日頃、賞勲局總裁より願書を御差出でたるよし外國の君主にして既に我が大綬章の頸飾を受用せられたるは露、獨兩國の皇帝のみなるやに承はれり

○議員被免（昨六日）

正五位　園山志澄

依願鐵道會議議員被免

○事務官の免官（昨六日）

臨時臺灣鐵道局事務官兼内務技師　山根文策

依願免本官兼官

○智慧袋（二十三）

鷗外譯補

退屈

こゝに一家あり、その眷族日ごとに同じさまに起き、同じさまに食ひ、同じさまに臥して、その間言ふところ行ふところの毫しも變化することを見ずば奈何、われは一二の破格、例之ば戀女房貰ひし當坐杯を除きて、その家の貴賤貧富を問はず、退屈の早晩必ず起るべきを知る。人の新聞雜誌を買ひ、横象碁骨牌を弄び、娘に遊藝を習はせなどするは、この變化なき裏に變化を求むるものなれども、それさへ久しからずしてその變化たる價打を失ひ、忽ち又新の退屈に襲はるべし。この時教育なき家庭にては、人々その退屈を色に形し語に出し、種々の罪惡はこれより生じ、甚だしきに至りては大破裂に終るべく、教育ある家庭にては、人々欠伸を噛へ眠氣を忍び、可笑からぬに笑ひ面白からぬを打ち興ずるさまにもてなしつゝ、強ひて糊塗する間に、可惜月日を銷費するならん。此退屈といふもの、忌むべきは、獨り一家の上のみにあらず、集會團體にも有り、社會の或階級にも有り、國家にも有り、今個人の世に處する限に就いて言はゞ、その範圍は家庭と集會とに止まれども、人若し能く此間にありて退屈を排せんに、われは欲念家としてこれを推すことを躊躇せざるならん。さてこれを排する道は總ての藝術なり、されど強ひて言葉せよとならばわれは云はん、藝術の交代を程好くして、その快樂の時は事ごとにこれを穠やかにせよ、愉快を愉ませよ、但しいかに相見るを喜ぶ間柄なりとも、朝より夕まで膝突合せて居るに至ることを避け、日ごとに食膳の種類を取替へて長坐することを避くるが如し。次に快樂の種類を高尚にせよ、食色の慾、利欲を挑む遊戯は、われを輕くし身を穢り、これをそれらして心を高くし、終に文學美術の妙用の靈妙なるに驚かす、